

# 研修会だより

編集・発行 北海道立生涯学習推進センター  
 〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 8階  
 電話 011-204-5781 ファックス 011-261-7431  
 E-mail kensyu@manabi.pref.hokkaido.jp  
 ホームページアドレス http://manabi.pref.hokkaido.jp/



喫緊の課題である人口減少問題に  
 「地域の存続」を視点に社会教育としてできる取組を考える！

## ◆◆平成27年度生涯学習推進基本講座(道東会場)終了◆◆

＜研修テーマ＞ 「現代的な課題や地域課題に対応した生涯学習・社会教育の推進について」  
 ～持続可能な地域づくりのために社会教育としてできること～

平成27年7月9日(木)に釧路管内釧路市の釧路市生涯学習センターまなぼとを会場に、生涯学習推進基本講座(道東会場)を開催しました。釧路管内を中心に、道東各管内から44名の社会教育主事、社会教育担当職員のほか、社会教育委員が集い、喫緊の課題として取り上げられている「人口減少問題」について、「地域の存続」を視点に社会教育としてできる取組について考えました。本号ではその研修内容のポイントを紹介します。

まずは、本道における生涯学習・社会教育の推進の方向性を整理！

法令をもとに生涯学習・社会教育について確認

### 【生涯学習の理念 教育基本法第3条】

生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない

社会教育について

### 【教育基本法第12条】

- 個人の要望 自己の充実・啓発や生活の向上のための多様な学習機会
- 社会の要請 少子高齢化、男女共同参画、環境教育、法教育などに関する学習等

国の動向から

### 【社会教育行政の課題】

自治会、町内会等の地縁組織といった伝統的な地域コミュニティに大きく依存

### (具体的には…)

- 地縁的な協働の必要性の減少
- 伝統的な地域コミュニティの機能の低下

に 応 える

### (背景にあるもの)

- ・産業構造の変化
  - ・人口の大規模移動
  - ・都市化過疎化
  - ・価値観の多様化
- (社会環境の変化)

中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理では…

### ① 地域コミュニティの変質への対応

- 伝統的な地縁組織には
  - ・組織運営の積極的な変革
  - ・NPO、ボランティア団体と相互に連携
- 社会教育行政には
  - ・住民の連帯感の創出を支援
  - ・地域づくりの担い手(人材)の育成
  - ・社会が発展していく持続可能なシステム構築

が求められている

### ② 多様な主体による社会教育事業の展開への対応

- 地域住民の行う学習活動は広範多岐
- ・NPOの活動、高等教育機関や民間事業者の教育事業が急速に広がる
- 組織的な教育活動である社会教育が拡充
- ・「社会の変化に対応した今後の社会教育行政の在り方について」(H10生涯学習答申) → 社会教育行政の企画運営に住民参画
- ・「新しい時代を切り拓く生涯学習振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」 → 行政・民間団体等との積極的な連携

第3次北海道生涯学習推進基本構想から

### (北海道を巡る諸情勢)

- 人口減少と超高齢化社会
- 子どもたちを巡る諸課題(学力・体力・いじめ等)

### 【生涯学習の新たな意義・役割】

- 人や社会との「つながり」を持たせる
- 子どもの育ちを「支える」
- 地域の活性化に「貢献」する

### 【目指す姿を実現するための3つの視点】

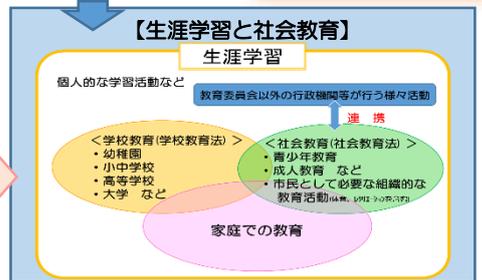
- 視点1 道民の学びを行動につなげる
- 視点2 子どもたちの学びを広げ支える
- 視点3 地域によさや課題を学ぶ

### 【北海道が目指す生涯学習の姿】

社会で生きる力を身につけ、持続可能な潤いのあるふるさとづくりを進める社会

変化の激しい社会を生きていくために…。今後の人口減少を見据え、生涯学習によって

- 「社会で生きる力」を身に付ける ← 人口減少の時代の中、主体的な学習で！
- 「持続可能な潤いのあるふるさと」をつくる ← 学習成果を生かした住民自治で！



一方では、新たな地域の担い手(NPO、ボランティア団体など)の活動の活発化

### (を提言したが…)

社会教育担当部局で完結した「自前主義」から脱却できない

### (このことから)

- 首長部局、大学等、民間団体等との積極的、効果的な連携
- 地域住民との協働した取組の推進

ネットワーク型行政の推進による社会教育行政の再構築が求められている



持続可能な地域づくりのために社会教育としてできること…  
「地域の存続」をテーマに自分たちができることを考える！



協議のテーマを「地域の存続」とした理由は…

- 国・道ともに「人口減少問題」を最重要課題としている
- 人口が減少 → 人がいなくなる ⇒ 「地域の存続」が危ぶまれる！

〈研究協議の流れ〉 ショートレク → 個人W → GW → 全体交流 → ショートレク

ショートレクにて

【数字から見る人口減少問題で押さえておきたいポイント】

- ① 5,699,000 と 4,190,000  
⇒ 1997年のピーク時の道内の人口と2040年の道内の人口（約150万人減少と言われていた）
- ② 2040年には3倍  
⇒ 現在より、道内の3,000人以下の市町村数が3倍になる
- ③ 1.25% ⇒ 道のH20年～24年度の合計特殊出生率（人口維持のために必要な出生率は2.07%程度）
- ④ 76.2% ⇒ 道民意識調査で、「できれば、今と同じ市町村に住んでいたい」と解答した人の割合

協議1 道民意識調査で「できれば、今と同じ市町村に住んでいたい（76.2%）⇒ どうして、住んでほしいのか？

〈各グループの意見〉

- 生まれ育った町だから ■ 不便さを感じない
- 先祖代々の土地や伝統を受け継ぐため
- 行政サービスがよい ■ 家族や友人など人間関係
- 人とのつながり ■ 地域のよさを知っている
- 地元への愛着心（地域愛） ■ 治安がよい
- 交通の便がよい ■ 職（仕事）がある
- 子育て環境がよい ■ 自然環境、食べ物おいしい
- 居心地（居住環境）がよい etc

「地域を好きになる人材を育てる」をテーマに協議

協議2 「地域を好き」になる人材を育てるためには…

① 仮説を立てる！

例) ○○○があって△△△が□□□しているからこの地域が好き

〈各グループの仮説〉

- 人とのつながりがあり、安心して生活できる環境があるから、この地域（まち）が好き
- 様々な活動ができる場があり、人との交流ができるから、この地域（まち）が好き
- 安心感があり、自分のペースで豊かな暮らしを営める（スローライフ）から、この地域（まち）が好き
- 多様なコミュニティを形成することができ、自分の居場所を作ることができるから、この地域（まち）が好き

④ 具体的な取組として考えられることは？

〈各グループからでた取組〉

- 住んでいる地域を知ることができ、人がつながることができる機会を提供する取組
- 地元の郷土芸能等、伝統的なものを異世代間で共有する心に残る「ふるさと」をつくる取組
- 地域に関する講座等、学習機会を創出するとともに、人材を発掘・養成する取組

まとめとして…

「地域を好き」になる人を育てる取組とは！

地域（まち）のすばらしさを知る機会や、住民の温かさに触れることのできる場を提供していく！

【人口減少から考えられる問題（マイナス要因）】

- 税収減により公共施設等の維持管理が難しくなる
  - 学校の統廃合によるコミュニティの崩壊
  - 住民サービスの低下や、安心・安全なまちづくりに対する防犯機能の低下
  - 雇用の場が減ると都市部へ人が流出し人口が減る（負のスパイラル）
  - 自治会、子ども会などを牽引する担い手が不足
  - 後継ぎ問題、特に第1次産業は深刻化
  - 低所得者や生活保護世帯が増加
  - 世代間のバランスが崩壊する
  - 地域の企業が衰退、撤退し雇用の場が減少
  - 地域コミュニティの維持が困難
  - 地域の伝承活動・文化財等、残したい文化が消滅 etc
- （全道社会教育主事等研修会における協議の意見より抜粋）

（イメージした理由から…）

結論として

このまちが好き

（だから…）住みたい！住んでほしい！

② どうすれば、仮説としたことのできるのか？  
そのために、「どんなこと」をすればよいのか？

〈各グループからでた意見〉

- 地域コミュニティの拡充（あいさつ運動などから）
- 人が集う場づくりとそれを実践する人材の育成
- 学習機会と場の提供と発表の場づくり（成果を活用する場）
- 地域を知ることができる学習の場づくり
- 地域資源を掘り起こす場の設定 etc

③ ②で考えたことは、だれがやるの？

- 行政 ■ 地域住民 ■ 学校 ■ 企業
- 自治会 ■ 商工会 etc

ネットワークの構築と連携・協働した取組が必要

ショートレクにて

- 協議したことを実践に！
- 計画策定や事業企画に「人口減少問題」に対する視点を！
  - 地域を存続するための実践に「担い手の育成」「協働の体制づくり」に、学習成果の活用の視点を！

【研修のご案内】

課題対応型学習活性化セミナー

「富良野マルシェの仕掛け人がまちづくりの極意を語る！」

～ 富良野マルシェの取組にみる「まちづくり」の実践について学びます ～

9月4日（木）～5日（金）かでの2・7 8階 820 研修室

●本研修会事業報告書について●

「生涯学習ほっかいどう」トップページの「生涯学習推進センター情報（<http://manabi.pref.hokkaido.jp/>）並びに「平成27年度主催講座一覧」（<http://manabi.pref.hokkaido.jp/center/jigyoh27/index.html>）に掲載していますので、本研修会日よりとあわせて御覧ください。  
また、本研修講座の内容や資料についてのお問い合わせは、担当：倉田 ☎ 011-231-4111（内線 36-326）まで御連絡ください。

